

和歌山全女を成功させよう!

第41回女性部定期大会

部落解放同盟和歌山県連合会女性部第41回定期大会を7月9日、同和企業センターでひらき、20支部81人が参加した。

水平社宣言の朗読を善明寺支部女性部が群読をおこない、迫力と奥行のある朗

部落解放同盟和歌山県連合会 女性部第41回定期大会



積極的な意見と来年の全女成功にむけた組織強化を訴える山本女性対策部長

した。主催者を代表して、山本昌代・女性対策部長は「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ対策法」そして「部落差別解消推進法」と差別に関する法律が成立した。「部落差別解消推進法」をどう活用していくのかを考えていかなければならない。今後の女性部の運動を考えていくために、今日は積極的な意見をだしてもらいたい。来年の5月12日、13日には全国女性集会和歌山でひらかれることになった。みなさんのご協力をお願いするとあいさつした。県連を代表して藤本

哲史・執行委員長は「女性が変われば、部落が変わる」という言葉があり解放運動の先頭に女性の姿があった。最近、さまざまな要求の場面で女性の声が聞こえなくなってきたように思う。狭山の問題、全女など、女性の組織強化をして、和歌山全女の成功に向けて県連としても協力していくとあいさつされた。つづいて、藤本眞利子・和歌山県議会議員、松井資喜・青年部長よりあいさつがあった。

来賓の田中一寿・県環境生活部県民局長は、昨年の4月に女性活躍推進法が施行されている。県では4月から第4次県男女共同参画基本計画がスタートしている。人権が尊重される社会をめざしてみなさんとともにとりくんでいくとあいさつがあった。

2016年度経過報告を宮本陸・事務局長がおこなった。2017年度活動方針(案)を坂下君代、竹本雅世・対策部長が「部落差別解消推進法」、狭山第3次再審について、差別事件、生活福祉、男女平等、女性の組織強化について提案した。

最後に、坂下副部長の団結ガンパローで第41回女性部定期大会をおえた。

子どもの最善の利益を求めて

保育活動者会議

来年にひらかれる全国人権保育研究集会の成功にむけ、部落解放全国保育活動者会議を7月15日・16日、鹿児島市にあるホテルタイセイでひらかれ、全国から50人が参加した。

はじめに、主催者を代表して吉岡正博・中央教育文化運動部長につづき、地元から西良博・現地実行委員長は、保育活動の定着を現実させたいと語った。沖村暁美・全国人権保育連絡会会長につづき、松谷操・中央教育文化運動部副部長から運動方針の説明があり、学習講演会にうつった。

県連青年部と 県環境生活部青少年課との話し合い

県環境生活部青少年課と県連青年部との話し合いを6月25日、和歌山ビッグ愛でひらき、県連から宮本修作・書記長をはじめ、青年部14人が参加し、県から

田中一寿・県民局長をはじめ、7人の職員が出席した。

はじめに、県連青年部を代表して松井資喜・青年部長から「互いにプラスになる発展的な話し合を」とあいさつした。つづいて、県連を代表して宮本書記長から「日曜日しか参加できない実態をふまえ、さまざま

な意見交換を」とあいさつした。田中県民局長は「部落差別解消推進法をもとに、今後の展開も含め問題解決したい」とあいさつがあった。

青年部からの意見としては、地方の大学や専門学校を卒業しても和歌山で就職先がない。また、離職率も高く、若年層の未保険がめだつ。青年を対象にした実態調査の実施が急務などの意見が出された。

県は、県内における就職率は高いが、離職者が高校生が約4割、大学生が約3割にあがる。企業誘致は、高速道路で高い料金がかかるという理由で紀南地方の誘致が難しい。企業誘致で来県した場合は、地元の人採用された場合は、諸礼金を出しているが、すすんでいない。また、学校や生徒にたいし、就職活動時に社会保険のある企業がどうかを把握がだされた。

今後の日程

- (10月)
- 1 第2回女性部一日研修 (りいぶる)
- 5 厚労省交渉 (東京)
- 第1回農林漁業運動部会議
- 執行委員会
- 11 紀の川市交渉
- ふれあい人権フェスタ全体会議 (ビッグ愛)
- 14~15 第17回全国識字経験講習会(徳島)
- 17 労働政策運動部会議
- 20 杭ノ瀬支部女性部定期大会(文化会館)
- 22 移動保健所健康検査事業(広文化会館)
- 23 狭山ピラ統一行動
- 23 対田辺市交渉
- 24 第18回和歌山・人権啓発研究集会実行委員会 (和歌山県研究所)
- 28~30 護憲大会 (東京)
- 29 移動保健所健康検査事業 (山口)
- 30 部落解放・人権政策確立要求第2次中央集会(東京)
- 31 狭山事件の再審を求める市民集会(東京)

◆全女に向けた要請行動

- 3 平井 4 橋本 5 鳴神
- 7 田辺・新宮 10 山口
- 11 湯浅 23 善明寺



青年の実態調査を訴える松井青年部長

青年部からの意見としては、地方の大学や専門学校を卒業しても和歌山で就職先がない。また、離職率も高く、若年層の未保険がめだつ。青年を対象にした実態調査の実施が急務などの意見が出された。

県は、県内における就職率は高いが、離職者が高校生が約4割、大学生が約3割にあがる。企業誘致は、高速道路で高い料金がかかるという理由で紀南地方の誘致が難しい。企業誘致で来県した場合は、地元の人採用された場合は、諸礼金を出しているが、すすんでいない。また、学校や生徒にたいし、就職活動時に社会保険のある企業がどうかを把握がだされた。



都府県連の意見をうけて、現状と課題を説明する谷田賀代・全人保会長

支局からの お知らせ



お気軽にお電話を!

和歌山支局では、各支部でのとりくみを積極的に紹介していきたいと思えます。支部活動や子ども会活動など、支局までお知らせいただければ、取材に走ります。もちろん、投稿記事も大歓迎! 写真を添えて支局までお送り下さい。(発送先) 〒640-08314 和歌山市神前405-3 部落解放同盟連合会内 解放新聞和歌山支局宛